

1. 調査報告概要表

作成日 平成21年 9月27日

【評価実施概要】

事業所番号	1073000174
法人名	医療法人 春香会
事業所名	グループホーム 桐の家
所在地	群馬県みどり市 大間々町桐原 634 (電話) 022-72-0218

評価機関名	サービス評価センター はあとらんど
所在地	群馬県前橋市大渡町 1-10-7 群馬県公社総合ビル5階
訪問調査日	平成 21年 9月 10日

【情報提供票より】(21年 8月 25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 2月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	13 人 常勤 7人, 非常勤 6人, 常勤換算 5.9人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2階建て, 1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	54,264円及び60,648円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食 400 円	昼食 500 円	
	夕食 400 円	おやつ 円	
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(8月 25日現在)

利用者人数	15名	男性 4名	女性 11名
要介護1	2名	要介護2	5名
要介護3	7名	要介護4	1名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢 平均	81.7歳	最低 65歳	最高 91歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小保方医院 加孝歯科医院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

理念の中に地域との関連性については改めて掲げていないが、日々の生活の場において常に地域との関わりを大切に考え「地域交流会」の開催や「防災協力員」の依頼、育成会のお祭りや保育園児の散歩時の休憩場所として庭を提供する等、積極的に交流の機会を作り連携を持つように努めている。管理者・職員は個を大切にとの考えのもとに利用者の思い、能力、そしてやる気を引き出しながら、利用者がその人らしい生活を送れるよう、なるべく手を出さずに見守りによる支援を大切に考えた対応を行っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 改善課題であった地域密着型サービスとしての理念については、検討はしたが従来の理念を継続するとの結論となった。現状に即した介護計画の見直しは話し合いを持ち、即改善に取り組んでおり、入浴については改善を試み、努力はしたが、思うような結果は出ず、改善はされていない。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価は管理者と計画作成担当者が作成したものである。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は定期的に開始しており、事業所からは利用者の状況や行事の報告、介護保険の説明などを行い、各委員より要望を聴いたり、意見交換をしてサービスの向上に反映させている。委員からのインフルエンザの話は学ぶことが多く、サービスの向上に活かされている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 意見箱の設置・法人によるアンケートの実施・家族交流会の開催等により家族等の意見や苦情を聴く機会を作っている。着替えに関してや風呂嫌いの利用者の入浴依頼等の要望があり、要望に沿った対応に取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域との交流は大切に考えており、地域交流会を開催してホームの様子を知ってもらったり、地域のお祭りや保育園児の散歩時に庭を提供して、利用者や地元の人との交流の機会を作って馴染みの関係を作る様に努めている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に作成した事業所独自の理念を掲げている。前回の外部評価の結果を踏まえて見直しについての検討をしたが、従来の理念をそのまま継続するとの結論を得、地域との関連性を盛り込んだ理念についての見直しはしていない。	○	理念は「事業所が目指すサービスのあり方を端的に示すもの」と理解し、これまでの理念に対して地域密着型サービスとしての役割を目指した内容を盛り込んだ理念作成について再度検討することを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は職員の目に付くように正面口や壁に掲示し、日ごろの生活の場で気付きがあれば話し合い、確認し共有に努めている。ケア会議やその他の会合等においても折に触れ話し合いをしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	年に1度、地域の人に声を掛け、ホームに寄ってもらい、利用者とお茶を飲みながら会話をする中で、ホームを理解してもらい「地域交流会」を開催している。また、育成会の祭りや保育園児の散歩時の休憩場所として庭を提供して利用者との交流の機会を作っている。地域の行事には積極的に参加、馴染みの関係を作っており、花の苗をいただいたり、犬の散歩時に立ち寄ってくれたりと交流が行われている		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は管理者とケアマネジャーが作成した。前回の外部評価の改善課題である取り組みを期待したい項目、3点のうちの介護計画の見直しについては即改善に取り組んだ。	○	自己評価の意義や重要性を確認するために、全職員で検討し、管理者がまとめるなどの方法で、自己評価を有意義にサービスの場で活用してほしい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度より開催日を偶数月の第2金曜日と定め、定期的で開催している。事業所から利用者の状況や行事の報告、介護保険の説明等を行い、各委員より要望を聴いたり、意見交換をしてサービスの向上に反映している。委員からインフルエンザの説明があり、そこからは学ぶことが多く、サービスの向上に活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月に1度介護相談委員を受け入れている。主に法人の事務担当者が市の関係者との連携を取っているが、管理者が推進会議の報告をしたり、電話で相談する等事業所としても交流の機会を作っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等の来訪時に日々の生活の様子や健康状態等の報告と金銭出納内容の確認をお願いしている。生活に変化が見られた場合など、必要に応じて電話やメールで知らせている。法人の情報誌「春夏秋冬」に行事等を掲載し、家族に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、法人による年に1回のアンケートの実施や家族交流会開催等で家族等の意見や苦情を聴く機会を作っている。家族等から着替えの件や風呂嫌いな利用者の入浴依頼等の要望があり、要望に沿った対応に取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職を最小限に抑える努力をしている。新しい職員が入る場合は利用者にはきちんと紹介している。入職時には事業所の様子や業務の手順等を説明し、1～2ヶ月は管理者が指導にあたり、夜勤の場合はいつでも電話等で相談し助言をもらえる体制が出来ている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務の調整により出来るだけ研修会には参加するようにしている。実践者研修、認知症・救急救命・身体拘束の研修等に参加し、受講者は内容を報告しており、全ての職員は介護技術向上に役立てている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入し、グループホープ大会やレベルアップ研修に参加し、情報交換等によりサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族に見学をしてもらい、納得しての利用をお願いしている。病院等からの入居者の場合は、職員が病院を訪ねて入居希望者と面会している。ショートを利用してもらいながら段階的に入居に繋げる場合もある。入居当初は利用者に関わる時間を多く持ち、少しずつ馴染んでもらうよう取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の能力を発揮する場面を工夫し、調理・清掃・庭の手入れ・テーブル拭き等、利用者と職員が一緒に行うようにしている。又、人生の先輩としての利用者から昔の歌や風習・料理の作り方・人生訓等、学ぶことが多い。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの情報・本人の日頃の言動や仕草等から思いや意向を察知しており、職員はそれらを共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族から意向を聴き、管理者が素案を作成、素案を基に全職員で検討して計画を作成し、家族の確認をお願いしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回のモニタリングと3ヶ月毎の見直しを行っている。心身状況に変化が見られた場合は関係者と相談し、介護計画を見直して新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院介助・緊急時の病院同行・買い物など本人や家族の状況に合わせて、柔軟な支援をしている。家族が高齢の場合等は家族と一緒に病院に同行して医師の説明を聴くこともある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。現在は特殊な病気以外は協力医がかかりつけ医で、週に1回の訪問診療を受けている。診療内容については家族の来訪時や電話にて報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所として重度化した場合の基本的な対応方針を明文化しており、関係者全員が共有している。状態の変化に応じて関係者等が話し合い、家族の意思確認をし支援に繋いでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報に関する基本方針及びホームの倫理綱領をホール内に掲示し、入職時に説明している。言葉かけや対応について会議や気付いた時などに指導または話し合いを持つてる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、一人ひとりの生活歴を参考にしながら、特に危険がなければ就寝・起床・食事の時間等自由な生活を支援している。夕食後利用者の居室に気の合う仲間が集まって会話を楽しむこともある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員は一緒にテーブルを拭いたり、系列の福祉施設で準備された食事を盛り付けて一緒に食事を楽しみ、下膳、食器拭き等をしている。庭で採れたふきのとうや家庭菜園で収穫された野菜等を使用した料理を1品添えるなど、食事が楽しいものとなるような工夫をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	前回の外部評価の結果を踏まえて、1・2階2ユニットの入浴日を利用することで、日曜を除いた入浴日が確保でき、希望する時に入浴を楽しめるよう試みたが、現在、別のユニットでの入浴を希望する利用者がなく、従来通り週3日の入浴支援を行っている。	○	努力のあとは伺えるが、「一人ひとりの希望やタイミングに合わせて…」を再度確認し、職員の勤務ローテーションの工夫等により更なる努力を期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	庭の手入れ・居室やホールの掃除・食器片付け・洗濯物干しやたたみ等の役割を持ってもらったり、絵手紙・折り紙・はり絵・歌・読書・将棋(男性職員と楽しむ)・買い物・散歩・花見など、物を作ったり見たりする楽しみごとや気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物・ドライブ・散歩・庭の花や野菜の手入れ・庭での外気浴・職員と一緒にの外出など、出来るだけ戸外に出る機会を作っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全ての職員が鍵をかけることの弊害を理解しており、日中は鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、年2回利用者と一緒に避難訓練を実施している。関連の老人保健施設にスタッフが常駐しているので、災害時の救助依頼体制については話し合われている。家族や地域の方々には災害時のために防災協力員をお願いしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士作成の献立により、バランスのとれた食事を提供し、利用者の体調や状況に応じて粥・刻み食・ミキサー食などの代替食品の配慮をしている。食事・水分の摂取量を確認して記録し、全職員が情報を共有、健康管理に繋いでいる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先のプランターや花壇には季節の花が咲き、ホールは明るく壁面には利用者の作品や行事の写真等を飾り、家庭的な雰囲気を出して居心地良く過ごせるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊の部屋は、本人や家族と相談しながら使い馴れた物や好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家族の写真・使い馴れた寝具・衣装ケース・雑誌・ギターなどが持ち込まれて、安心して過ごせる居室作りが出来ている。		